

フィールド言語学と言語資料 - 中国雲南省ワ族のフィールドワークから -

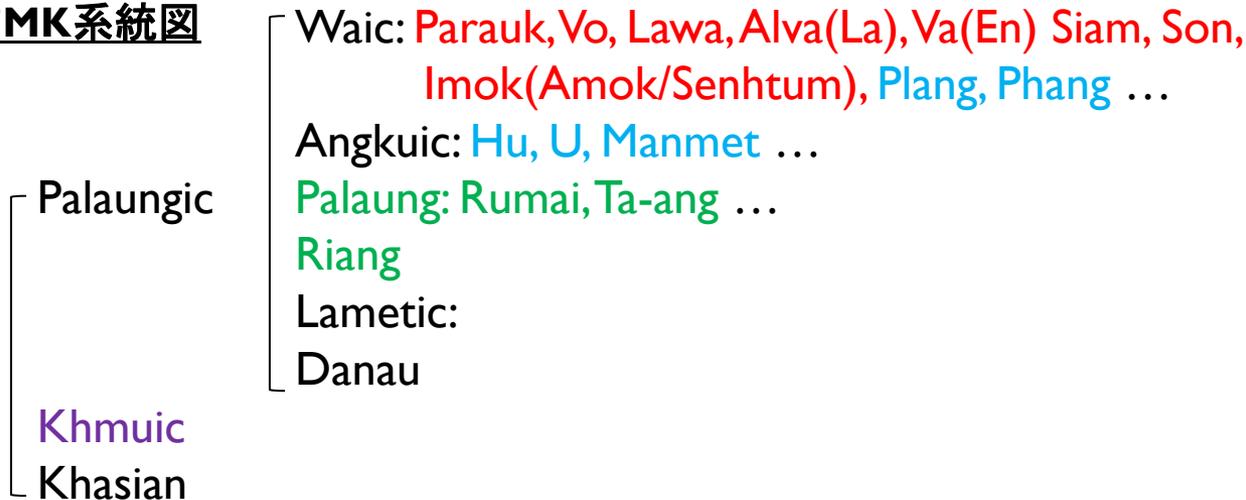


山田敦士

(1) 研究の概要

- ▶ 専門: 言語学(フィールド言語学)
- ▶ 研究テーマ: 西南中国～北タイにおける言語動態
- ▶ 主な研究対象: 北方モン・クメール系の言語

北方MK系統図



中国民族分類

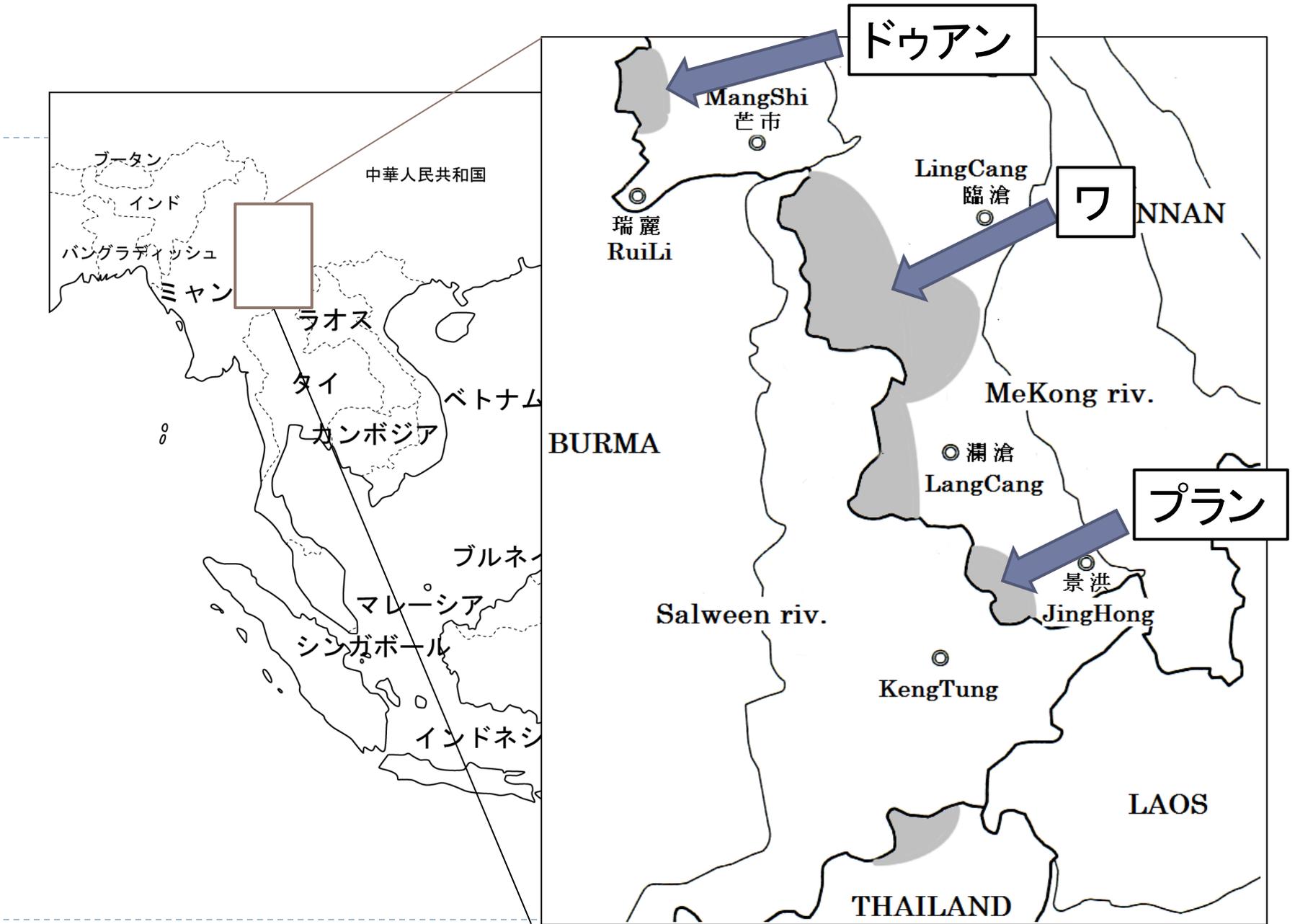
佧(ワ)族
布朗
(プラン)族
德昂
(ドゥアン)族
克木
(クム)人

北方モン・クメール系の人びと

- ▶ 中国雲南省～北タイという広域に散在
 - 山地から平地まで、モザイク状に分布

人口

中国 (2000年)	396,610 佤(ワ)族	91,882 布朗(プラン)族	17,935 德昂(ドゥアン)族
ラオス (2000年)	—	2,213 (Samtao)	—
タイ (2004年)	105 (Parauk) 17,346 (Lawa)	1,200 (Blang) 100 (Samtao)	1,937 (Palaung)
ミャンマー (1959年)	250,000～ 334,533	不詳	不詳



北方モン・クメール系の人びと

- ▶ 当地における最古層の住民の一つ
 - 分岐の大きさ
 - 「タイ(シャン)文化圏」(新谷1998)の形成に深く関与

「タイ(シャン)文化圏」

多民族・多言語(モン・クメール系、チベット・ビルマ系、ミャオ・ヤオ系、漢系、タイ系)による複合文化交流圏。
タイ系言語がリングフランカ

- ▶ 言語文化の実態が不明
 - 「民族」認定以上の調査に乏しい
 - ワ、プランを対象に、30ほどの言語・方言変異を調査

(2) フィールド言語学における「採る」

- ▶ 言語学: 「ことば」の総合学問
- ▶ 対象とする言語資料の性質によって様々なアプローチがあり得る
 - ▶ 文献言語学、コンピュータ言語学 etc.
- ▶ 対象とする言語が資料に乏しい場合、フィールドワークが不可欠となる
 - ▶ フィールド言語学

フィールド言語学の課題

▶ 対象とする言語:

- ▶ 言語資料がない／乏しい個別言語

▶ フィールド言語学の課題:

- ▶ 言語の姿(体系、構造)を解明すること
- ▶ 言語資料を通して、話者集団の文化のあり様を解明すること

私のフィールド調査

▶ 準備段階:

- ▶ 調査協力者探し

▶ 第一段階: 語彙調査

- ▶ 基礎語彙(数百～数千)の収集
- ▶ 目的: 語彙の比較による音韻体系の解明
- ▶ 目的: 文法情報の収集

▶ 第二段階: 文法調査

- ▶ 媒介言語を通して、該当項目(句や文)を翻訳
- ▶ 目的: 文法規則の解明

語彙調査（1）基礎語彙調査票による収集

▶ 基礎語彙調査票

- ▶ 『アジア・アフリカ言語調査票 上／下』
（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1966／1979）
- ▶ *Handbook of Chinese Dialect Vocabulary*, (Princeton University, 1972)
- ▶ その他、地域に即したものなど多数
 - ▶ 記述言語研究コミュニティーサイト (<http://main.fieldling.jp/>) に情報

▶ 体系的な語彙の収集

- ▶ 語彙の比較による音韻体系の解明
- ▶ 借用関係の解明
- ▶ 文法情報の収集
 - ▶ 名詞類別（～人、本、匹 etc.）
 - ▶ 語順（主述関係、修飾関係 etc.）

	漢語	徳タイ語	ワ語
頭	头	hol	kaŋ
頭髮	头发	xonlhol	hakkəŋ
30	三十	saamlsip7	samsip
私	我	kau6	ʔɿʔ
食べる	吃	kin6	ʔih

語彙調査 (2) 場面に即した収集

▶ 「食べる」

- ▶ 「肉を」 ⇒ *?ih ne?*
- ▶ 「飯を」 ⇒ *sɔm ?up*
- ▶ 「果物を」 ⇒ *p^hε? pli?*
- ▶ 「雑炊を」 ⇒ *?ih mɔc*

▶ 「飲む」

- ▶ 「茶を」 ⇒ *r^hup c^ha?*
- ▶ 「汁物を」 ⇒ *r^hup tauu?*
- ▶ 「水を」 ⇒ *ɲau? rɔm*
- ▶ 「酒を」 ⇒ *ɲau? plai*



意味領域	飲食の語形式
【副食】、使う	<i>?ih</i>
【主食】、食事する	<i>sɔm</i>
【果物】	<i>p^hε?</i>
【スープ、茶】	<i>r^hup</i>
【飲み物】	<i>ɲ<u>au</u>?</i>

私のフィールド調査

▶ 準備段階:

- 調査協力者探し

▶ 第一段階: 語彙調査

- 基礎語彙(数百～数千)の収集
- 目的: 語彙の比較による音韻体系の解明
- 目的: 文法情報の収集

▶ 第二段階: 文法調査

- 媒介言語を通して、該当項目(句や文)を翻訳
- 目的: 文法規則の解明

文法調査 (1) 所有と属性

▶ 修飾構造:

- | | | | | |
|-----------|------------|---------------|------------------------|------|
| ▶ 「私の花」 | <i>tai</i> | (<i>cɛ</i>) | <i>ʔɣʔ</i> | 【所有】 |
| | 花 | (の) | 私 | |
| ▶ 「きれいな花」 | <i>tai</i> | (<i>pa</i>) | <i>m^hɔm</i> | 【属性】 |
| | 花 | (の) | きれい | |

⇒ 【所有】と【属性】は別のカテゴリー

cf. 漢語:「我的花」「漂亮的花」

文法調査 (2) 譲渡可能性 (alienability)

- ▶ 所有関係: 「私の目 / 父 / 家 / 本 / 水牛...」

	目	父	家	本	水牛
$c\varepsilon(\text{の})$ 必要性	×	×	△	○	○

(テスト: A $c\varepsilon$ $?\gamma?$: 「私のA」とできるか否か)

⇒ 譲渡(分離)可能性の反映

- ▶ 名詞句 : $ne?$ $c\varepsilon$ $?\gamma?$ (肉、の、私) の解釈は?
- ▶ 名詞句 : kan $c\varepsilon$ $?\gamma?$ (頭、の、私) の解釈は?

インタビュー調査の限界

- ▶ 文法調査の問題点
 - ▶ 調査者の主観による項目設定
 - ▶ その言語事象の頻度や生産性は??
- ▶ 文法を確かめるためには自然発話が理想
- ▶ テキストの重要性

フィールド言語学における「テキスト」

- ▶ 「テキスト」の多義性
 - 歴史学における「史料」
 - 教育における「教科書」
 - コンピュータにおける「文字データ」
 - テキスト言語学における「文以上のレベル」

- ▶ フィールド言語学における「テキスト」
 - 原語によって記録した(された)もの全般

私の集めたテキスト

▶ 話し言葉の記録:

- ▶ 会話
- ▶ 口頭伝承(民話、神話、歌、なぞなぞ、諺etc.)
- ▶ 道具の使い方、調理法
- ▶ 思い出話、夢

▶ 書き言葉の記録:

- ▶ 碑文
- ▶ 広報資料
- ▶ 宗教的資料
(キリスト教、仏教 ??)
- ▶ 日記、自伝

* 中国ワ族地区では2種類のローマ字式転写法を使用
⇒p.23を参照



ことわざ資料 (1)

- ▶ *m^hɔm yaun₁ mai simeɪ?, m^hɔm ɲeɪ? mai bun*
「村がよいのは男のおかげ、家がよいのは女のおかげ」
- ▶ *ʔaŋ bun sa? r^huɸp c^ha?, ʔaŋ sa? sa? koi simɔŋ*
「婦女は茶を飲まない、坊主は妻を娶らない」
- ▶ *yum kuɸŋ grai ɲeɪ?, yum me? grai ma*
「父親がなくなれば家を失う、母親がなくなれば畑を失う」
- ▶ *kɔŋɲɔm blɔm kuat, ta?kuat blɔm ɲu*
「子供は老人のそばを離れない、老人は火のそばを離れない」
- ▶ *sigrit kɔn sɔk pau?ʔo, sido kɔn sɔk pau?ʔac*
「バツタが姉妹を探す、イナゴが兄弟を探す」

ことわざ資料 (2)

- ▶ *ʔakʔoʔ pon sivai, mɛʔmai pon sinɔ*
「竹弓でトラを射る、寡婦が青年に嫁ぐ。」
- ▶ *rup kaʔ ʔaŋ saʔ pon, m^haŋ bun ʔaŋ saʔ cu*
「漁網に魚がかからない、求婚は受け入れられない」
- ▶ *sivian tom mɛ soʔ ʔaŋ ʔih ʔaŋ tiʔ*
「糞さえ犬に与えない」
- ▶ *romnuum ʔia, rommia goi*
「鶏の小便、トカゲのよだれ」
- ▶ *grom siam kawʔ gɛʔ, grom sivɛʔ ŋɛʔ ŋɔk*
「タイ族といれば身が軽くなる。ワ族といれば首が痒くなる」

テキストの収集

▶ テキスト収集の方法：

- ▶ 写真、モチーフ
- ▶ 民族語で応答
- ▶ 語りの雰囲気：炉端、夜、タバコ、酒
- ▶ 様々な地域にて同類の物語を採集

- ▶ 協力者の訓練



(3) 「採る」の向こう側：言語資料を「生かす」

- ▶ 「採った」テキストを「生かす」
- ▶ フィールド言語学におけるテキスト活用：
 - ▶ 言語学的資料として「生かす」
 - ▶ 現地還元をして「生かす」

テキストの活用（1）言語学的資料として

- ▶ 自然発話テキストは万能か？
 - 言い間違い
 - 冗長な繰り返し
 - 個人の癖

テキストの活用 (2) 現地還元

- ▶ 現地社会との関わりを考えることもフィールドワーカーの責務
- ▶ フィールド言語学における「現地還元」
 - 教育的支援(教材、辞書の作成etc.)
 - 言語政策への関与(正書法への提言etc.)
 - 様々な文化活動への関与(ことば教室etc.)

私のテキスト活用：現地還元

- ▶ 現地政府からの要請で、民話テキストを正書法（Laivax(新)仮文）と漢語対訳のかたちで公刊
 - 原本（YAMADA 2007）を現地初等教育機関に寄贈
 - 挿絵入り版を集落に寄贈
 - 副教材として活用（??）

ワの文字

Laivax : (新)仮文

中華人民共和国建国後に作成されたローマ字式転写法
正書法であるが、ほぼ政治的な領域に使用が限定

Laisala: 老仮文

20世紀初頭に宣教師によって作成されたローマ字式転写法

ワ族・ワ語関連参考文献

- ▶ デーヴィス、H.R. 1989.『雲南：インドと揚子江流域の環』(田畑久夫ほか編訳)古今書院.
- ▶ Diffloth, Gérald. 1980. "The Wa languages". *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 5.2, 1-182.
- ▶ Harvey, Godfrey E. 1957. "The Wa people of the Burma-China Border" *St. Antony's Papers*, Oxford University, St. Antony's college, No.2, London Chatto and Windus, 126-135.
- ▶ Scott, James George and J.P. Hardiman. 1900. *Gazetteer of Upper Burma and the Shan States*, Part 1, Vol. 1, Rangoon, Superintendent of Government Printing and Stationery.
- ▶ Scott, James George. 1896. "The Wild Wa: A Headhunting Race" *Asiatic Quarterly Review* 3d ser., 1, 138-158.
- ▶ 新谷忠彦. 1998.『黄金の四角地帯: シャン文化圏の歴史・言語・民族』慶友社.
- ▶ 田畑久夫ほか編. 2001.『中国少数民族事典』東京堂出版.
- ▶ Watkins, Justin W. 1998. *The Phonetics of Wa*. PhD thesis, London University.
- ▶ Winnington, Alan. 1959. *Slaves of the Cool Mountains*, Lawrence and Wishart, London.
- ▶ 山田敦士. 2011. 「テキストを採り、活かす」『FIELD+』第5号, 東京外国語大学出版会, 16-17.
- ▶ ----. 2009. 『スガンリの記憶: 中国雲南省ワ族の口頭伝承』雄山閣.
- ▶ ----. 2007. 「私のフィールドノートから: パラウク・ワ語」『月刊言語』11, 大修館書店, 82-87.
- ▶ YAMADA, Atsushi. 2007. *Parauk Wa Folktales* (佤族巴绕克的民间故事), ILCAA.
- ▶ 顔其香・周植志. 1995. 『中国孟高棉语族语言与南亚语系』中央民族出版社.
- ▶ 云南省编辑委员会编. 1983a, b, c, 1987. 『佤族社会历史调查(一/二/三/四)』云南人民出版社.
- ▶ 赵岩社. 2000. 『佤族生活方式』云南民族出版社.